


ミヤマアブラスキ	<i>Spodiopogon depauperatus</i> Hack.	準絶滅危惧
		イネ科
選定理由	生育地や個体数が少ない。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	根茎は短い。稈は直立し、高さ50-80cm、葉身は長さ7-20cm、幅10-15mm。花序は直立し長さ約10cm、2つの小穂が対になって節につく。小穂は長さ4-5mm、第二小花の護穎からは芒が小穂の外に伸び出る。	
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は6-8月。いわゆる日本海要素の1つで、日本海に面した多雪地帯に生育する種。低山帯～亜高山帯の岩場や明るい草地に生育する。	
分布状況	日本固有種で、本州中部地方から東北地方の日本海側に分布する。岐阜県では、県北西部で稀に見られる。	
減少要因	林道拡張などによる環境の改変が減少の要因。花が地味であるため、存在自体が認識されないまま、森林の伐採や林道の改修などによって自生地が失われている可能性がある。	
保全対策	自然度の高い環境の維持など。道路拡張などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となるため、計画の見直しや工法の検討など、保全対策に慎重を期する必要がある。	
特記事項		
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県 2005	



文責:福岡義洋